

令和6年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ からない ■

| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | 考察 |
|--|--|--|
| 1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に向けていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など) | 2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。 | 「1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」では、肯定的評価がいずれも80%を超えた評価だった。地域と学校や保護者が連携・協働した「よしまつ交流会」「吉松ポッチャ交流会」等の取組で、児童も地域の方々や顔見知りになり、学校外の方々から見守られながら心身ともに成長を実感できている。「2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進」では、主体的・対話的な学びを推進するためにICT活用も含め、校内研修で授業改善に取り組んでいる。教職員の意識の高まりに比べ児童自身の意識は低く、80%であった。自ら考え主体的に行動する児童の育成に向け、子ども主体の授業へと改善を図ってきたい。 |
| | | |
| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | |
| 3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など) | | 「3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」では、保護者、教職員では肯定的評価が80%を超えていた。一方で、児童の肯定的評価が64%であった。学習していることが社会とつながっているようには捉えられなかったようだ。今後は、特別活動や総合的な学習の時間などで、学校や地域の課題を児童が自分で考え、保護者や地域社会等との連携し、課題解決に取り組みさらに探究学習の充実を図ってきたい。また、行事や児童会活動などで、縦割り班活動を積極的に行い、児童が主体的に参加し、リーダーシップを発揮できる機会を増やしていきたい。学習したことが社会とつながっているといった有用感を感じられるよう取り組みたい。 |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。 | 学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていますか。 | 「4 個別最適な学び」についての肯定的な評価について児童が79%と肯定的な意見があったのに対し、保護者が68%、教職員が71%であった。今後は、まなびポケットやみらいシード等のAIを活用した一人ひとりにあった個別学習だけでなく、総合的な学習の時間を中心に様々な教科等で個々の興味・関心に基づく課題発見・課題解決学習を推進をしていく。「5 協働的な学び」では、肯定的な評価が保護者が76%、児童が78%、教職員が83%であった。どの教科の授業でも学びのアウトプットを前提とし、教師が学習課題に関するパフォーマンス課題を設定し、まず児童が自分の意見をもとに、児童同士が対話し、協働しながら学習を深めていく学習過程を工夫していく。 |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。 | 7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。 | 「6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」では、肯定的な評価が保護者77%、児童77%、教職員が88%であった。「7 インクルーシブ教育の推進」では、肯定的な評価が保護者72%、児童77%、教職員が94%であった。児童相互の理解を図り主体性を育むために、縦割り班活動など様々な場面で交流(共同)学習を行なっている。また、児童支援や保護者に寄り添うために、SC、SSW等、様々な関係機関と連携を図り組織的な対応ができています。しかし、校内の支援体制が全体的には浸透できていないことがわかった。保護者や児童がもっと相談しやすい雰囲気と場の設定に努めていきたい。 |
| | | |

| (3) 最適な教育環境の整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|-----|----|------|----|-----|----|--|-----|-----------|-----|----|------|----|-----|----|--|
| 8 安全・安心な園づくりの推進 | 9 地域や家庭と連携した教育環境の整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。 | 学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。 | どちらの項目も、保護者、児童、教職員で肯定的な評価が80%を上回る結果となった。学校安全協議会や交通安全教室、引渡訓練を地域と連携し行っている。また、防災教育では、防災食を使い体験的な学習を行った。今後も、PTAや地域の関係団体と連携を図り、見守り体制の再確認・協力依頼を行っていききたい。「9地域や家庭との連携」では、今年度から地域と学校の協働活動とした「よしまつ交流会」で、ポッチャ交流会や地域の人材を活かした体験活動を実施でき、地域の方と顔見知りの関係ができてきた。今後、小中一貫校で設定した「きらめきプラン」にある「育みたい子ども像」を学校・地域・家庭・児童で共有・共感し、学校や地域の行事等でも持続可能な方法で連携・協働を図っていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <caption>8 安全・安心な園づくりの推進</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>80</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>85</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>85</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価 (%) | 保護者 | 80 | 児童生徒 | 85 | 教職員 | 85 | <table border="1"> <caption>9 地域や家庭と連携した教育環境の整備</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>80</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>85</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>85</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価 (%) | 保護者 | 80 | 児童生徒 | 85 | 教職員 | 85 | |
| 対象者 | 肯定的評価 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 80 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 85 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 85 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象者 | 肯定的評価 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 80 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 85 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 85 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| (4) こどものいのちと権利の擁護 | | | | | | | | | | |
|--|-----------|--|-----|----|------|----|-----|-----|--|--|
| 10 こどもの最善の利益を守る環境づくり | | | | | | | | | | |
| 学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。 | | 「10 こどもの最善の利益を守る環境づくり」では、肯定的な評価が教職員で100%であるが、保護者が79%、児童が71%という結果だった。校則・生徒指導見直し委員会や学校保健委員会等で子どもたちの意見を取り入れ、学校生活に取り入れているといったことを他の児童や保護者にしっかりと発信していかなくてはならない。また、縦割り班活動では、計画から運営まで児童が中心となって取り組んでいる。今後も対話し意見を表明する時間を設けて、自分たちのことを自分たちで決めて、責任を持って守るという民主主義の基本を学ぶ場を設定していきたい。児童との定期的な教育相談だけでなく、随時の教育相談をSCなどと引き続き連携・協力しながら実施していく。 | | | | | | | | |
| <table border="1"> <caption>10 こどもの最善の利益を守る環境づくり</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>79</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>71</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価 (%) | 保護者 | 79 | 児童生徒 | 71 | 教職員 | 100 | | |
| 対象者 | 肯定的評価 (%) | | | | | | | | | |
| 保護者 | 79 | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 71 | | | | | | | | | |
| 教職員 | 100 | | | | | | | | | |

独自項目

| 本校の教育 | | 本校の教育 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-----------|-----|----|------|----|-----|----|---|-----|-----------|-----|----|------|----|-----|----|--|
| 学校は、授業中「くーべた・びん」で姿勢よく集中して、しっかり考え発表できるように取り組んでいると思いますか。（学び励まん） | 学校は、子どもが協力して活動するような指導に努めていると思いますか。（心ひとつ） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <caption>学び励まん</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>83</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>64</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>83</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価 (%) | 保護者 | 83 | 児童生徒 | 64 | 教職員 | 83 | <table border="1"> <caption>心ひとつ</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>83</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>85</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>85</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価 (%) | 保護者 | 83 | 児童生徒 | 85 | 教職員 | 85 | 「11学び励まん」では、肯定的な評価が教職員で83%、保護者64%、児童54%であった。学習に向かう土台としての学習規律・姿勢の指導の指導など、学校全体で継続的に取り組む必要がある。一方で、授業でのルールの1つとなる姿勢保持が困難な児童も多くいるので、静と動のメリハリのある学習を教師も意識する必要がある。「12心ひとつ」では、いずれも85%を超えていた。今後も行事等での児童の活躍や協働の場を設け、存在感を高め、達成感を感じることができる実践をしていきたい。 |
| 対象者 | 肯定的評価 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 83 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 64 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 83 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象者 | 肯定的評価 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 83 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 85 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 85 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 本校の教育 | | | | | | | | | | |
|---|-----------|-----------|-----|----|------|----|-----|----|--|--|
| 学校は、子どもが友だちや自分のよさを認め合えるような指導に努めていると思いますか。（親しまん） | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <caption>親しまん</caption> <thead> <tr><th>対象者</th><th>肯定的評価 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>82</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>72</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>89</td></tr> </tbody> </table> | 対象者 | 肯定的評価 (%) | 保護者 | 82 | 児童生徒 | 72 | 教職員 | 89 | | 「13親しまん」では、教職員が89%、保護者が82%、児童が72%で肯定的な評価であった。今後も児童一人一人のよさを認め、困りに寄り添い、実態に応じた指導や称賛の言葉掛けを行っていく。また、「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感、間違いやできないことを笑わない共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、お互いの個性や多様性を認め合う安全・安心な風土の醸成を図り、自己指導能力の育成を行っていく。 |
| 対象者 | 肯定的評価 (%) | | | | | | | | | |
| 保護者 | 82 | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 72 | | | | | | | | | |
| 教職員 | 89 | | | | | | | | | |

来年度の具体的な取組について

○校内研修を中心に「主体的に考え行動する力」を育成していくために、知識・技能の習得とその活用で終わらず、学びを教科横断的に活用したり、個人の興味・関心に基づく探究に結びつけるなど、教師主導の「教える」授業だけでなく、子どもが「自分たちで課題を見つけて解決していく学習」「友達と対話しながら問題を解決していく学習」等、「子ども主体」の授業への取組を行っていく。

○よしまつ交流会や吉松ポッチャ交流会など、地域と学校が連携・協働するイベントを行ったことで地域と学校が顔見知りになる機会が増えた。今後は、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を意識して、児童・地域・学校・保護者で「育みたい子ども像」（学校教育目標）の具現化を目指し、今後さらに連携を深めながら、持続可能な方法で地域学校連携活動を推進していくことが重要となる。

○「自己肯定感」を育んだり高めたりするために、教育活動全体を通して「自己存在感」「共感的な人間関係の育成」「自己決定」「安全・安心な風土の醸成」を育む場を意図的に設定していく。また、来年度もCognitive Training（コグトレ：認知機能トレーニング）の時間を確保し、学習面、社会面、身体面という3つの観点からトレーニングすることで、学びの基礎となる力を育成し、学力や生活全般の質の向上、自己肯定感の向上を図っていく。

小中学校関係者評価

- ・授業参観後に「教員の話し方がわかりやすい。」「児童に学習支援員が、丁寧に必要な支援をしているのがよかった。」「学年の個性があるが、児童の対話の場が設定してあったのはよかった。」という感想があった。
- ・学習規律や姿勢の指導などは学習へ向かう土台となる。これだけは全校で取り組んでいくというもの（例えば、くーべた・びんやUDの視点など）を校内研修等で共通理解・共通実践してほしい。
- ・よしまつ交流会で、地域と学校の協働をさらに進めていくためのつながりができた。保・小・中連携を意識し、総合的な学習の時間等で「育みたい児童像」の系統を意識したカリキュラム作りをすすめてほしい。